

ばれっと

2010
4月
No.128

■ すぽっとらいと

仙台市森林アドバイザーの会

「自然にも人間にもやさしい森林をつくる」

■ アラカルト

市民活動お役立ち情報 **協働のいろは**

- サポセン広場
- サポ本
- イベント紹介



3月15日より登場。

こんにちは、新しいコピー機です。

3月から新しく印刷作業室に登場しましたコピー機です。今までのコピー機と同様、A3・A4・B4用紙に対応しています。皆さまからご要望が多かった「カラーコピー」「両面コピー」には残念ながら対応していませんが、今までよりも「スピーディー」に「美しく」仕上げていきますので、よろしく願います。

★古紙再生紙を使用しています。
★大豆油インキを使用しています。

すぽっとらいと

◆市民活動サポートセンターを活用している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

「自然にも人間にもやさしい森林をつくる」 仙台市森林アドバイザーの会

荒廃した人工林の手入れ作業を行い、次世代のために多様な種が共生する森林を残す活動を行っている仙台市森林アドバイザーの会。今回は定例活動場所のひとつである「旗立3丁目緑地」にお伺いし、現地での活動内容を拝見させて頂くとともに、代表の坂井孝次郎さん、広報の寺沢信志さん、幹事の菊地政美さんにお話を伺いました。

● 森林機能の回復を目指して

設立のきっかけは、2002年に仙台市農林土木課が主催した「仙台市森林アドバイザー養成講座」でした。その修了生が活動を発展させるため、2004年に団体を立ち上げました。

その活動目的は、市民参加の森林ボランティア活動を森林アドバイザーとして指導・育成し、森づくりの実践活動を行うことです。また、荒廃した森林の整備により森林が本来持つ機能の回復や多様な生物が共存する、人にも自然にも優しい森林づくりを図り、地球環境保全に寄与する事も目的としています。

今回取材を行った旗立3丁目は太白山の麓にあり、昭和44年に杉が植林された後、40年間放置された荒廃林です。整備開始前は枯れ木やツタ、そして多くの廃棄物で足の踏み場もない状況で、近所の方も寄り付かない杉林でした。1年半の整備作業の結果、森に太陽光が入るようになり明るい森となりました。「最近では作業をしていると、散歩中の近所の方が声をかけてくれるんです」と代表の坂井さんはうれしそうにお話しします。

広報を担う寺沢さんは旗立3丁目の整備作業を40年の森林のブランクを取り戻す仕事とおっしゃいました。人の手によって作られた人工林は、下草刈り、枯れ木の処理、間伐など継続して整備を行う事が必要で、それを怠ってしまうと荒廃林化してしまうそうです。



▲ 森林整備作業

今回の作業内容は「間伐」。これは込みすぎた状態を緩和するため抜き伐りし、林の中に光を入れ植物相を豊かにする作業です。光が入る事により昆虫や微生物も集まり、多様性のある自然の森林の姿がだんだんと戻るそうです。そしてそれは山崩れを防止したり、雨を地質で浄化したり、また水を蓄えたりするなど、人間にもやさしい森林になるのです。

● ブログでの積極的な情報公開・発信

会ではブログを活用し、情報公開、会員同士の情報共有を行っています。その理由をブログを管理する寺沢さんに伺うと、「森林保全の活動は地道な作業で、何年たっても変わらない作業です。そんな中、とある助成金に応募した際に公益性がないと判断されてしまいました。これは活動を世の中に訴えていかないと活動資金も得られなくなる、という危機感を感じました」とお話しして下さいました。

寺沢さんは今年70歳。今までパソコンを使う事はあってもブログはこれが初体験だったそうです。それが今では外部・内部への発信ツールとして活用できるまでになりました。先日、ブログを見た方が、風揚げに使う骨を探しに現場を訪れたり、コメント欄には現場近くにお住まいの方から応援のコメントがあるなどの反応があり、外部とのつながりにも非常に役立っています。

寺沢さんにブログの管理で気をつけていることを伺うと、「活動の都度更新すること、そして管理者個人の意見ではなく活動出席者の意見や感想を掲載しています。また内部の情報共有のためミーティングや作業内容も写真付で掲載し、情報の検索がしやすいようにカテゴリーを現場ごとや会議など細かく分類するようにしています」実際に取材に伺った日は14時まで取材活動を行っていたのですが、当日の19時にはその日の活動記事がアップされていました。

また、会は（特活）せんだい・みやぎNPOセンターが運営する「みやぎNPO情報ライブラ

リー」において、予算・決算・事業計画・事業報告・役員名簿など様々な団体基本情報を公開し、情報開示レベルの最高位である「5つ星」の評価を得ています。こうした情報開示の結果、2008年にライブラリーと連携している日本財団が運営する公益コミュニティサイト「CANPAN（カンパン）」の「市民活動と企業の寄付のありかたを探るモデルプロジェクト」に選定され、環境活動を支援したいと思っている企業より寄付を頂く事となりました。

● 豊かな森を次世代につなぐために

今後の目標と課題を伺うと、坂井さんは「森林の保全整備を続けて、多種多様な生き物が共存する森づくりを目指します。そして地域貢献もそうだけど、“地球”貢献というつもりで活動を行っていききたい」とのこと。課題は毎年活動場所が変わってしまうので、出来れば長期間継続的に活動できる場所を持って、市民の方と一緒に整備しながら、野外活動にも使えるような場所を提供したいと話していました。

寺沢さんは「課題はブログを見られる人と見られない人の情報格差があるので、それを埋めること」との事です。それから荒廃林に関する情報不足も感じているそうです。荒廃林は確かにあるのですが管理者が誰か、所轄がどこか等の情報が一元化されていないため、団体に情報が入ってきません。ただ、宮城県が環境エネルギー税を導入するなど、森林保全を取り巻く環境は変化しつつあることに期待しているそうです。

森づくりのゴールをお伺いすると、寺沢さんは「樹木も成長するし、永遠のテーマですね。今、問題なのは植樹などのイベントには人が集まるが、下草刈り、間伐などの作業は定員割れという状況です。どちらの作業も森林の環境保全には必要な大事な作業であるので、もっと若い世代にも啓発していかなければならないと感じています」とおっしゃっていました。



取材を終えて…

「ブログ」を広報用のツールと内部の情報共有の両方に利用している団体運営術には驚きました。そして今回作業に参加させて頂き、人間が一度手を加えてしまった自然を、人間の手で取り戻す難しさに触れることが出来ました。「地球貢献」という坂井さんの言葉が、心に残りました。

(担当：菊地 竜生)

団体紹介

仙台市森林アドバイザーの会

仙台市主催の「仙台市森林アドバイザー養成講座」の修了者で組織された団体で、健全な森づくり活動と森林ボランティアの指導・育成を行っています。荒廃した森林の整備により、森林のもつ公益的な機能の回復を図り、地球環境保全に寄与することを目的にしています。平成20年度には仙台市百年の杜推進課から「緑の活動団体」に認定されました。

活動内容は、仙台市の「みんなの森づくり事業」において、育樹祭や植樹祭、下刈りで市民ボランティアの安全管理や指導を行うほか、会の定例活動として青葉区上愛子の箱倉山、太白区の旗立3丁目緑地などで森林整備を行っています。



■ 設立 2004年8月

■ 連絡先

〒980-0811

仙台市青葉区一番町4-1-3 レターケースNo. 2

TEL 022-373-0064

FAX 022-268-4042

[レターケースNo. 2]

HP <http://blog.canpan.info/morittosendai>

サポセンの

ココが使える！

■サポセンは まちなか事務局！

「主な活動の現場は森林。会員同士の情報共有はブログなどを利用しています。サポセンの便利な点は、ネット環境の無い会員からの、会議の出欠などをレターケースで受け取れること。

また、ロッカーを利用して書類を保管できるなど、事務局機能の一部を街中におけるので、利便性を感じます」と代表の坂井さんはおっしゃっていました。

アラカルト

◆市民活動に役立つ情報やサポセンで開催された講座や事業の報告など、毎月いろいろなテーマでお送りします。

【市民活動お役立ち情報】

協働のいろは

NPOと行政による協働は、1990年代後半以降、関心が高まり続け、仙台市でも多くの協働事業が実践されています。

今回は、「協働ってなんだろう？」という協働の基礎について、わかりやすくお伝えします。



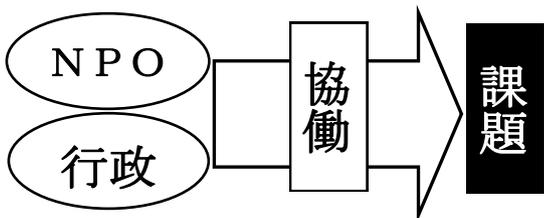
■ 協働ってなんだろう？

協働については、行政、NPO・市民の立場からさまざまに定義されています。

2005年1月に仙台市が発行した、「仙台協働本—協働を成功させる手引き—」では、その用語集のなかで、次のように定義しています。

『協働とは、組織と組織が、特定課題の解決のために、目的を共有して、互いに資源を持ち寄って、相乗効果をあげながら、協力して取り組むことをいう。組織とは、行政、企業（事業者）、NPO（市民）の3つのセクターがある。』

簡単に言うと、様々な課題解決のために双方向の対等なコミュニケーションの上で合意し、行政とNPOが互いの得意技を持ち寄り、準備企画の段階から完了評価の段階まで、相談しあいながら取り組みを進めていくこと、と理解すればよいでしょう。あまり難しく考える必要はないのですが、「対等なコミュニケーションと合意」「得意技の持ち寄り」「準備企画段階から」「相談しあいながら」というところがポイントです。IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] の川北秀人さんは、協働をレストランに例えて、今までは行政が作った料理を食べるだけの市民だったが、メニューを決めるところから一緒に相談して料理をつくるレストランになることだと、わかりやすく説明しています。



これらの定義からもわかるように、協働は、行政にとっても、NPO・市民にとっても、共通の課題解決のための効果的な手段・手法なのです。

よく勘違いされるのですが、協働すること自体が目的になっては本末転倒です。

※協働にはNPOと企業の協働もありますが、今回は、行政とNPO・市民との協働を対象にします。

■ なぜ、協働は求められるの？

もともと人々は地域の皆に関わることを自分たちでやってきました。ただ、行政の役割が大きくなるにつれて、役所がやることだけを公共的と呼ぶようになってきたのです。そのため、市民は公共サービスの受け手としての面ばかりが強調されていました。しかし、社会状況の変化から、市民にも参加や参画の権利があることが再認識されてきました。市民が公共政策の立案から執行、評価まで関与することができるようになったのです。

また、高度消費社会の進展によって、市民のニーズの私化・潜在化・複雑化・高度化が起こり、行政の機能やノウハウだけでは、社会が必要とするサービスが不足するようになってきました。

一方で、自分たちの力で社会の課題に取り組もうとする人々も増えています。仙台においても、環境・国際協力・福祉など多様な分野で活動する市民活動団体等のNPOが、行政や企業では十分に対応しきれなかった市民ニーズを捉え、柔軟・迅速に対応し、成果をあげています。

このような社会的な背景や、行政の財政難なども加えて、行政とNPO・市民との協働が求められるようになってきたのです。

■ 協働の形態って何があるの？

協働にはさまざまな形態があります。NPOという組織と行政の関係だけではなく、参加する市民との関わり方から見て、次の4つに分け整理しました。

○意思決定への市民参加

公聴やパブリックコメント、公募委員会、ワークショップなど、さまざまな形で、政策・施策の意思決定に市民が参加できる制度があり、近年整備が進んでいます。この市民参加は、個々の市民も組織化された市民も対象にしています。基本的に、市民の権利としてしっかり保障されるべきものです。(協働の前提としての市民参加)

○行政主導事業への市民・NPO参加

従来からの行政主導の事業への市民の動員や協力依頼などによる協働で、行政が関与し事務局も担い、補助金を支出してきた旧タイプの団体との関係なども入ります。これらは、新しいニーズへの対応が遅れるなどの課題があり、見直しの機運が起きている分野です。

○実行委員会による事業実施

官民双方が集まって実行委員会などを組織し、協働で事業を実施するものです。従来型では、主に行政が負担金を支出していましたが、最近では、資金の一部を助成金や参加費、協賛金などで確保するケースも増えてきました。

公募された市民と、NPOが参加する実行委員会方式は、市民参加の実践場として有意義で、短期間の協働としては、もっとも使いやすい手法です。

○NPO・市民との協力・連携・協働事業

社会課題に取り組む市民やNPOと行政との新しい関係が生まれています。委託・補助金・指定管理者制度などの活用もその例です。

特徴は、NPO側の新しい社会システムの実験性や専門性、提言制(アドボカシー)を政策に活かすことができる点です。NPOの活動は、市民による参加で形成されるもので、当事

者性や共感性を基礎としています。単なる下請けではなく、より良いサービスを提供し、自分たちのミッションの実現に向けて、積極的に取り組むNPOが増えています。そのため、市民から地域の課題解決に向けた提案を公募し、行政が市民と一緒に解決に向けて取り組むといった協働事業提案制度の例もあります。(例：かながわボランティア活動推進基金21)

更には、地縁組織(町内会、自治体など)が、新しい地域課題に積極的に取り組む気運も生まれ、行政との協働関係も見直されつつあります。

■ 協働で1+1>2にする

協働により、異なる主体が互いに持っている資源や知恵を持ち寄り、協力しあうことで、個々に取り組む以上の効果を得ることができます。

協働は、決して特別なこと、新しい考えではありません。これまでも、町内会など地縁型組織と行政の協働などが行われてきました。ただ、その関係が透明性と公開性を確保している必要があるというのが最近の協働事情です。

地域をよりよいものとするためには、地域の課題を、地域に住むさまざまな市民が主体的に考え、取り組んでいくことが大切です。

協働は、その取り組みのための効果的な手段と言えるのです。

<参考資料>

- ・『仙台協働本
—協働を成功させる手引き—』
発行:仙台市
- ・『協働の強化書～NPOと行政・企業の協働を強化するために～』
発行:(特活)せんだい・みやぎNPOセンター

(担当:小松 州子)

協働について相談したい時には、

⇒ ⇒ ⇒ こらぼん協働相談所へ!

仙台市では、NPOと仙台市の協働を推進するため、こらぼん協働相談所を開設し、協働事業に関するご相談に対応しています。

仙台市市民活動サポートセンター指定管理者と仙台市地域活動推進課(4月より市民協働推進課)職員が対応します。

□相談対象:NPO(市民活動団体)、仙台市

□相談日:随時(事前予約制)

□対象内容:協働事業に関すること全般

- ・現在実施している仙台市とNPOの協働事業に関する課題
- ・今後実施を予定している事業に関する内容
- ・仙台市との協働事業につながる事業提案等

□お問い合わせ

こらぼん協働相談所
仙台市市民活動サポートセンター

TEL 022-212-3010

サポセン広場

利用者のみなさまから寄せられた声にお答えする、サポセン広場。
今回は、利用票の感想欄に寄せられた声をご紹介します。

いつも綺麗なスペースで使いやすかったです。

Answer

スタッフ一同、常に皆さんが気持ちよく活動できるよう、掃除や備品の整備に努めていますが、利用者皆さんのご協力があるからこそ、綺麗なスペースが維持されています。これからも一緒に、綺麗で使いやすいサポセンを作っていきます！

交流サロンを利用したいと言ったところ、団体名や活動内容を聞かれたのですが、なぜですか。

Answer

サポセンは市民活動団体やNPO、ボランティア団体の活動のためにご利用いただける施設です。活動内容や利用目的によって、毎回ご利用いただけるかの判断をしております。そのため、団体名や活動内容をスタッフがうかがっています。

セミナーホールのスクリーンが止まりづらくて困りました。

Answer

スクリーンを止めるための部品の故障が原因でした。新品への交換を検討しておりましたが、調整がつかず、代わりにスクリーンを止めるためのストッパーを設置して対応することになりました。利用者皆さんには長らくご不便をおかけしてしまい、申し訳ございませんでした。



『世界を救うショッピングガイド - Causebrand Handbook』

著者:野村 尚克
発行:タイトル株式会社
定価:1,470円(税込)

■この本は「A-6 企業とNPO/フィランソピー」にあります。

私たちの普段の生活では、あまり気づかないかもしれませんが、世界にはたくさんの方の社会問題があります。子どもが安心して暮らせる世界を作りたい、自然環境を守りたい、そういう気持ちはあっても、何からはじめたら良いかわからない。そんな方に、本書は「買物からできる社会貢献があるよ！」ということを気づかせてくれます。

売り上げの一部が寄付されることで社会問題の解決に貢献できる商品を、コーズブランド(Causebrand)と呼びます。本書はそんなコーズブランドの数々を日本で初めて紹介しました。

たとえば、あなたが買った1リットルの水。その売り上げの一部はNGOに寄付され、井戸の建設費用とメンテナンスに使われます。このことにより、アフリカに安全で清潔な水を10リットル生み出せる、というキャンペーンに参加していることになる商品があるのです。

また、コラムには「フェアトレードについて」や、企業にとって「コーズブランドとはチャリティなのか？ビジネスなのか？」など、興味深い説明があり、読み物としても充実しています。ぱらぱらとめくってみるだけで、いつも自分が使っていたもの、食べていたものが、実はすでに社会の問題解決に役立っていることを教えてくれる一冊です。

(担当 大西 千佳)

オススメ
今月のサポ本
『世界を救うショッピングガイド』
- Causebrand Handbook

4月の イベント紹介

■サポートセンターで行われる、参加者募集中のイベントを紹介します。
■原則として各団体に提出していただいた文章をそのまま掲載しています。

●貸室での催し物

開催日時	イベントタイトル	貸室	参加費	主催/問い合わせ先
4月3日(土) 17:30~20:30	「プラチナ☆サロンパーティー」 55歳以上のシングルライフを送るあなたの 為に交流の場を提供致します(第1回)	研修室5	ドリンク・お菓子付 2,000円 (事前申込必要)	プラチナ☆クラブ Tel:090-1931-0614 Fax:022-786-5272 (今野)
4月4日(日) 13:30~16:30	子どもの可能性を伸ばすコミュニケーショ ン!	セミナー ホール	一般2,000円 大学生500円 教職員無料 (事前申込必要)	NPO法人 日本スクールコーチ協会東北支部 Tel:090-7068-1890 (二階堂) Fax:019-661-5337 (川村)
4月6、13、20、 27日(火) 15:30~17:00 19:00~20:30	不眠と疲れのメンタルケア ———心理療法による——— グループ・セラピーですっきり	研修室1	2,000円 (事前申込不要)	はあとランド Tel:080-5225-7532 Fax:022-348-8262 (佐藤弘司)
4月11日(日) 13:30~15:30	スピリチュアルな傾聴についての話し合い	研修室2	2,000円 (事前申込必要)	NPO臨床バسترナル教育研究センター 「共に歩む会・萩」 Fax:022-268-4042 (LC105)
4月11日(日) 14:00~17:00	「プラチナ☆サロンパーティー」 55歳以上のシングルライフを送るあなたの 為に交流の場を提供致します(第2回)	セミナー ホール	ドリンク・お菓子付 2,000円 (事前申込必要)	プラチナ☆クラブ Tel:090-1931-0614 Fax:022-786-5272 (今野)
4月21日(水) 11:00~13:00	ベビーケア、チャイルドケア、マッサージ	研修室3	1,500円 (事前申込必要)	Heartの会 Tel:022-222-8926 080-1823-3146 Fax:022-222-8926 (曾根千賀子)
4月22日(木) 10:00~16:00	Dr.コパ風水の師匠でも有名な先生が来 仙。悩みや問題を自分で解決できる力が必 ずつく講座です。	研修室5	5,000円 (事前申込必要)	仙台気学塾 Tel:080-3338-8903 (遠藤)
4月25日(日) 14:00~16:00	アラノンオープンミーティング 身近な人の飲酒(薬物)で悩んでいる方は どなたでも参加できます	セミナー ホール	無料 (事前申込必要)	NPO法人アラノンジャパンGSO Tel:090-3367-9772 Fax:03-5458-3315

●市民活動シアター(B1F)での催し物

開催日	イベントタイトル	時間	入場料など	主催/問い合わせ先
4月4日(日)	ANEGO 3rd Anniversary Party	開場 14:15 開演 14:30	1,000円 (2ドリンク)	Anego Mail:anegosendai@yahoo.co.jp http://blog.canpan.info/anego
4月16日(金) ~18日(日)	ALTアート文化交流会2010 COLO(U)RS	16日 18:30~21:00 17日 10:00~21:00 18日 10:00~16:00	無料	ALTアート文化交流会事務局 Tel:090-9637-5526 (ジェイミー・ローゼンバーグ)

●5月よりイベント紹介が変わります!

毎月、『ぱれっと』とサポセンホームページにて紹介し
ていた「イベント紹介」が、5月より新しくなります。

<変更点>

- ①掲載を希望したイベント情報は、仙台市市民活動サ
ポートセンターホームページのみに掲載
- ②イベント開催日の10日前まで受付可能
- ③受付たものから、順次ホームページに掲載していく
ので、イベント開催の数ヶ月前からホームページに掲載
されるようになります



※ホームページのみで
の掲載に伴い、イベ
ント紹介への掲載希
望フォームも変更と
なりました。

詳しくは、スタッフまでお問い合
わせください。

写真で振り返る 2月～3月のサポセン主催事業

◆出前サポセン

- ・仙台市ボランティアフォーラム
2010年2月7日(日)
- ・高砂市民センター
2010年3月13日(土)



多くの方が足を止めて、サポセン紹介のパネルを見ていました。

◆[市民・NPO×自治体] 協働対策セミナー

- ～市民参加で協働力パワーアップ3ヵ年計画をつくろう～
2010年2月10日(水)



定員を上回る47名の方が参加。会場は、熱気に包まれています。

◆[市民活動シアター活性化事業]

- サポセン・シアターを3倍面白くする企画
劇団ファットブルーム 第3回公演
「アヒル達の住む家」
2010年2月20日(土)・21日(日)



障害者・健常者が一緒に作り上げた演劇公演。連日満員御礼でした。

◆「シアター3周年記念シンポジウム」

- 呼吸するお寺、胎動するシアター
～異質が出会い・交流する場・應典院(大阪)に学ぶ、サポセンシアターの未来とは
2010年3月12日(金)

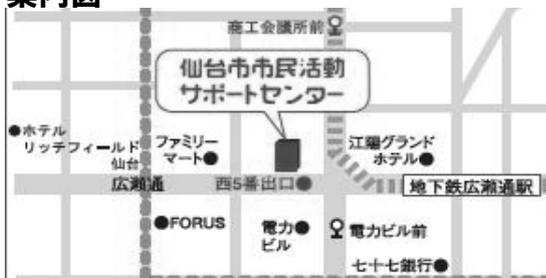


参加者・パネリストの方々から、シアターのあり方や活用の方針について提言をいただきました。

■ 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

■ 案内図



○当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車で来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注)路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

○ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

[最寄のバス停]

電力ビル前、商工会議所前、広瀬通一番町前、地下鉄広瀬通駅前

■ 開館時間

- 平日 午前9時～午後10時
- 日曜・祝日 午前9時～午後6時

■ 休館日のお知らせ(施設点検等のため)

3/31 4/28

■ 編集後記 ◆壊れていたコピー機ですが、ようやく新しい物に入れ替わりました。今までご不便をおかけしていました。新しいコピー機もよろしくお願いします。(内川)

◆今回のすぽとらいと取材では、団体の方に教わりながら初めてチェーンソーを使って木を切ったりと貴重な体験をさせていただきました。外にできることの大切さを実感しました。(菅野)

発行:仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日:2010年3月29日

編集:特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人:内川奈津子 菅野祥子

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間:2007年4月1日～2010年3月31日]